

# JHFREPORT



第12回JHFハングライダー・パラグライダーフォトコンテスト応募作品「碧い海」 撮影地：鹿児島県奄美大島・佐仁海岸 撮影者：高瀬吉康

## 2026年度JHF事業計画と予算

2026年度のJHF事業計画と予算を策定しました。

事業方針のとおりさまざまな課題がありますが、まずは安全第一を心掛け、今年度も楽しいフライトを！

### 事業方針

現在のフライヤー数は漸減傾向にあり、今後は高齢パイロットの引退に伴うさらなる減少が予測されます。この課題に対し、ハングライダー・パラグライダーの普及に向けて広く内外の

知見を求め、それらを反映した実効性のある普及策を、可能なものから順次具体化してまいります。特に若いフライヤーが就職や転居といったライフステージの変化に直面しても、途切れることなくフライトを継続できる支援体制の構築を急ぎます。

あわせて、より手厚い競技支援を可能にする体制を整えるべく、競技の運営体制についての検討を進めていきます。そのために必要な資源の確保に向けて、事務局業務のデジタル化による

効率化を進めます。また、事故を未然に防ぐため、公開している事故報告の分析を深め、各フライヤーが安全のための知見を能動的に蓄積できるよう質の高い情報発信に注力します。こうした安全対策の徹底を内外に広く周知し、スカイスポーツに対する社会的な理解と信頼の向上を確固たるものにしてまいります。

\* 事業の具体的内容／予算は4～5ページをご覧ください。

## スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

### JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。



# 36年間の事故を分析：事故防止のポイント

JHF安全性委員会 委員長 伊尾木 浩二

過去36年間の事故報告、995件を分析しました（下表）。これを参考に、事故防止のポイントはどこにあるのかを考えていきましょう。

近年、機体性能をより引き上げる2ライナーシリーズのパラグライダーが多く商品化されています。安全性能と機体性能は均等ではなく、個々の特徴をよく把握する必要があります。たとえばENテストにおけるクラス分けはされてはいるものの、テストは穏やかな空域で行われ、パイロット自らによる翼の変形とアクティブ操作を加えて、自然回復等の特性をデータ化し試験を行っています。でも実際には、サーマルコンディション、乱気流下でのフライト、風が強風になった場合などには、翼が牙をむくように豹変する

ことは十分にあり、これまでに重大事故も多数発生しています。このような事故が起こらなければ、誰もツリーランすらすることも無いと思います。

実際に起きた事故は大きく三つに分類されるでしょう。『ヒューマンエラー』『機体特性』『操作技術』の三つです。

## 【ヒューマンエラー】

ヒューマンエラーとは自己判断のエラーであり、たとえばチェック不足、状況判断ミスなどがあげられます。空中衝突も同様で、周囲確認不足が衝突事故を引き起こします。ヒューマンエラーに起因する事故は『防げる事故』であり、知見や経験をより深めることによって、無くすことができるはずで

## 【機体特性】

初級機と上級機では全く異なったパラグライダーであり、ENクラス、アスペクト比、翼面荷重、時代によるサイズ変化、ライン構成、軽量モデル、2ライナーモデルなど、さまざまな違いによって、特性も変化します。

## ●ENテスト

ENテスト基準はこの10年間ほぼ変わっていません。でも機体は進化しています。高性能化する機体に対しても合格できるノウハウをメーカーは持っています。10年前の機体と現在の機体では、大きく設計が変化しています。

自分の機体のENテスト内容の詳細を把握すること、また機体のマニュアルを熟読し見直すこと、これらを行えば、自分の技量に適した機体なのかをあらためて判断でき、操作方法などを

36年間の事故（全報告件数：995件） \*内容が複数にわたる事故があるため表内件数の合計は1627件で、全報告件数とは異なります。

内容	防げる事故の可能性	技量経験不足	潰れ	失速	ツリーラン	気象判断ミス	着水	空中衝突	タンデム	フックアウト・レグベルト忘れ
件数	656	340	162	145	96	67	58	55	29	19

## 2025年・2026年の事故報告 11月16日～3月15日

	事故日	機種	内容	EN	年齢	経験	性別	技能証	状況
45	11月16日	PG	ブレークラインが絡んだ状態で離陸するが、すぐにサイドフォロで着地		54	23	男	P	腿から足骨折
46	11月23日	PG	テイクオフで離陸時に足が浮き、その後足が地面につき、潰れてTO前に落下		29	3	女	NP	下腿部脱臼
47	11月30日	PG	ピンロック式カラビナで離陸後ライザー外れてTO前に落下	CCC	75	38	男	XC	無傷
48	12月7日	PG	競技中に山沈						
49	12月9日	PG	オートロックカラビナで離陸後ライザーが外れてTO前に落下				男	XC	無傷
50	12月17日	PG	トップラン試み潰され落下	C	57	19	男	XC	腰椎圧迫骨折
51	12月23日	HG	LDアプローチ時、ハーネス内側から物品落下、地上テント破損	-	70	43	男	XC	無傷
52	12月28日	HG	LDアプローチ時、吹き流しに接触	-	56	33	男	XC	全身打撲
1	1月16日	PG	全潰れからスパイラルダイブ。レスキュー開傘	B	66	2	男	P	無傷
2	1月16日	PG	アプローチで低く入り、LD直前の旋回で引きすぎて失速し墜落	B	58	25	女	P	腰椎圧迫骨折
3	1月17日	MPG	講習中、着陸時に横風に煽られて休憩場所の相手機材へ衝突、破損	B	53	0	男	無	無傷
4	2月1日	PG	ランディング高めに入り、引きすぎてスピルし墜落	B	76	15	男	P	頸椎捻挫
5	2月1日	HG	風強めで離陸後、すぐに傾き修正できず熊笹に激突。脳震盪あり	-	35	15	男	XC	眼下骨折
6	2月14日	HG	講習斜面練習中、フレア時に翼が傾き地面接触しグラドループ	-	25	0	女		肩から手骨折
7	2月20日	PG	着陸時にアスファルト部分に着地し足を捻った疑い	B	71	30	男	NP	足骨折
8	3月1日	PG	LD付近で片翼が潰された可能性が高くスパイラルで道路際に衝突	B	77	6	男	P	死亡
9	3月1日	PG	競技中に高度失い着陸場所を探したが見つけれずツリーラン	B	57	9	女	XC	肩から手骨折
10	3月11日	PGとHG	HGが正面からPG右翼と接触。スパイラル後に離脱し安全LD	C	66	17	男	XC	無傷
11	3月15日	PG	LDアプローチ中に潰され木に接触し地面に落下	A	44	4	女	NP	腰椎骨折

再学習することができます。

### ●アスペクト比

これは機体を選定するとき最も重要です。潰れからの回復、スパイラルダブ、クラバットなど、アクティブな操縦を行ううえで、アスペクト比は大きく影響します。目安として、フラットアスペクト比が5.5を超えると中級クラスを超えていくようなイメージと言えます。

自分の技術がどのレベルかをしっかりと再認識し、機体選びの判断をすることが必要です。

### ●翼面荷重／サイズによる変化

翼面荷重とサイズについては、翼を立体として考えると簡単には判断できない要素があります。

但し、機体を高性能化させるためには速度が重要となり、同じSサイズ、Mサイズでも時代に伴い翼面積が小さくなっている機種もあります。そう考えるとアスペクト比と同様に、アクシデント発生時に対応できるかどうか焦点となります。

### ●ライン構成

ラインの太さがラインチェックの難易度、見落としリスクに影響します。そして、高性能機においてはアッパーラインが減少しクラバット時に翼端がラインの中に入り込む可能性が高くなり、回復させる技術レベルも高くなります。簡単にフルストール及びリカバリーをさせる技術を持っていればよいのですが、その操作技術に不安を感じる場合には、中級機ミドルクラス以上には乗るべきでないという判断になります。機体のマニュアルにも、フルストール技術を必要とすることが書かれているものもあり、現在乗っている機体についてもマニュアル等を見直す必要があります。フライト時の気象判断の際にもライン構成による特性を考慮するとよいでしょう。

### ●軽量機材

軽くて持ち運びが便利という特徴を持っていますが、フライトに関しては、翼が軽く、薄く作られていることもあり、翼の乱気流に伴う動きが過敏

になることが普通です。初めて軽量機材に切り替える場合には、試乗等させてもらい、自分の理想と合致しているかを確認するのもよいかもしれません。

### ●2ライナー

2ライナー機は、3ライナー機とは大きく異なる特徴を持ちます。安全面に関しては、特に高速フライト時の操作方法に注意が必要です。ラインが少ない分高速となり、万が一、大きく潰されると適切な判断と操作を素早く行わねばなりません。回復困難なクラバット時にはフルストール技術も必要となる場合があり、2ライナー機の特徴を理解して乗ることが大切です。※高速時の安定性や潰れにくさを実現している反面、一度潰れると非常に激しい挙動に陥ったりクラバットし易いなど、2ライナー機の特徴を熟知してフルストールからの回復やリアライザーコントロールなどの必要な練習をしてゆく必要があります。

### 【操作技術】

操作技術に起因する事故で最も多いのは、潰れと失速です。

潰れたらどうするか、失速はなぜ起こるのか、しっかりと再学習することが重要です。

年に一度は安全セミナーを受講し安全フライトに対する心構えを高くすると、より楽しく飛べるはずです。

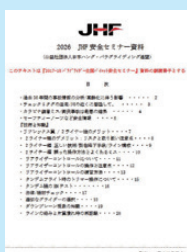
### 「もったいない事故」を繰り返さないために

もしあなたが事故を起こしてしまったら、あやうく大事故になるようなミスをしてしまったら、どうしますか？

自分の失敗を皆に伝えるのは嬉しいことではありません。ベテランパイロットであれば尚更でしょう。しかし、あなたの経験が皆の安全につながるとしたら、どうですか？

JHF安全性委員会では、事故再発防止のために、事故やインシデント情報を収集しています。当事者、エリア・スクールの管理者など関係者の方は、事故報告をしてください。目撃しただけだから……という方は、JHFウェブサイト、会員ページトップの画面左上、『事故情報収集ページ』からお知らせください。匿名で結構です、ぜひご協力を！

## 2026JHF安全セミナー資料が完成



パラグライダーパイロットの安全セミナー用資料2026年版ができました。掲載内容は……

- 過去36年間の事故情報の分析／高齢化に伴う影響
  - チェック5タグの活用／川の近くに着陸して
  - カラビナ装着ミス／衝突事故は最悪の結果
  - セーフティノーツなど安全情報
- このほか、『技術と知識』として、

リフレックス翼／2ライナー機のメリット、2ライナー機のリスクと取り扱い注意点や正しい技術・誤った操作、リアライザーコントロール、タンデムフライト時のトリマー操作、タンデム機のENテスト、法律／機材チェック、適切なグライダーの選択、ダウンブレン現象、ラインの絡みと片翼潰れ時の再認識……と盛りだくさんです。

ぜひ再学習に役立ててください。ご希望の方はJHF登録スクールまたは都道府県連盟にお問い合わせをお願いします。

## タンデムパイロットの皆様にご注意！

タンデムフライトにおいて一般の方を同乗される場合には、JHF上級タンデム技能証が必須です。まず検定を受けて、技能証を取得してください。検定会の予定はJHFウェブなどでご案内しています。

上級タンデム技能証を保有していない方が一般の方とタンデムフライ

トをしているのを見かけた方はお手数ですがJHF事務局までお知らせください。

上級タンデム技能証保有者リストは下のQRコードから確認できます。



### 【JHFウェブサイト】

<https://jhf.hangpara.or.jp>  
会員トップページから

# 2026年度JHF事業計画と予算

2026年度のJHF事業計画と予算を策定しました。事業方針は1ページをご覧ください。

## 事業の具体的内容

HG：ハンググライダーディング

PG：パラグライダーディング

MPG：モーターパラグライダーディング

XC：クロスカントリー

## 【理事会・事務局の事業】

- 1 全国のフライヤーの実態把握と安全対策
- 2 愛好者増加のための各種広報活動
- 3 ハング・パラグライダーディングのイメージ向上のための各種広報活動
- 4 委員会の主体的活動の支援
- 5 フライト中の情報交換を可能にする無線機およびその他端末の普及
- 6 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 7 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 8 第三者賠償責任保険の付保継続
- 9 寄付・助成金獲得への取り組み
- 10 オンライン手続き、キャッシュレス決済導入等のシステム改修
- 11 ボランティア制度の活用促進
- 12 その他定款の定める管轄事項

## 【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

### ●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理（注意喚起など実施）
- 2 事故調査活動
- 3 セーフティーノーツの管理
- 4 委員会ホームページの管理
- 5 JHFレポートへの安全に関する記事の掲載
- 6 チェック5タグの普及推進（安全注意喚起）
- 7 PGパイロット安全セミナーのテキスト改訂（安全セミナー普及活動）
- 8 レスキューリパックのテキスト改訂予定
- 9 位置情報共有アプリにエリア登録検討（昨年から継続維持）

### ●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・HG・MPGパイロット安全セ

ミナーの開催

- 2 教員実技検定会の開催
- 3 教員学科集合検定会の開催
- 4 上級タンデム技能証検定会の開催
- 5 教員助教員更新講習会の開催
- 6 レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会の開催
- 7 レスキューパラシュートリパック認定証検定会の開催
- 8 スクール登録
- 9 タンデム教本の作成（上級タンデム教本と分冊にする）
- 10 上級タンデム練習会の開催
- 11 教員養成課程の制定
- 12 教員ワークショップの開催（教員志望者への学習機会の提供及び、現役教員・助教員の交流と学び直しの機会提供）
- 13 教員学科検定受検予定者への予備講習と不合格者の補習と再検定
- 14 技能証移行申請の試験問題作成

### ●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズの運営
- 3 フライトコンテストの運営
- 4 委員会ホームページの運営
- 5 クラス1日本選手権の開催（4月2日～5日 茨城県足尾エリア）
- 6 クラス5日本選手権の開催（3月26日～29日 茨城県足尾エリア）
- 7 クラス5世界選手権への代表選手派遣（5月 イタリア）
- 8 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 9 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 10 日本ハンググライダーディング競技者育成プログラム（Fledge：フレッジ）の企画・運営
  - 1）ハングシリーズ大会の開催（5月：山形県南陽エリア）
  - 2）スポーツクラス大会の開催（8月：場所未定、10月：場所未定）
  - 3）フライト講習会の開催（11月：Web開催）
  - 4）女性向けフライト講習会の開催（時期未定）
  - 5）気象コミッティ人材の育成（時期未定）
- 11 新スコアリングソフトウェア（Air

Score）の導入検討

### ●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、AJリーグ管理
- 4 XCリーグ管理（外部サービス：XContest利用料含む）
- 5 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 6 XC日本選手権の開催（開催地北海道ニセコ 9月シルバーウィーク予定）
- 7 アキュラシー日本選手権の開催（開催地・時期未定）
- 8 第2回パラグライダーディングジュニア世界選手権（北マケドニア Krushevo）8月21日～29日に選手団派遣（人数等未定）
- 9 第14回パラグライダーディングアキュラシー世界選手権（タイ Pha Tak Suea）2027年2月13日～21日に選手団派遣（人数等未定）

### ●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
  - 1）理事会諮問事項への答申等諸規約、規定改正案作成と理事会上程  
「JHF総会傍聴規約」の改正
  - 2）JHFホームページ上の総覧整備（定款・規約・規程改正およびFAI部分）  
<https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html>
- 2 各種制度導入および改正について上位団体・他委員会および事務局との連携  
役員選任実行委員会と協力し役員選任規約の改訂  
国内記録のFAI/JAA公認記録登録実現のための公式立会人制度の検討

### ●補助動力委員会

- 1 新設補助動力上級タンデム技能証規程整備 説明会と検定会の実施
- 2 トーイングオペレーター規程整備と検定に向けた取り組み

- 3 各種安全講習会の開催
- 4 愛媛県八幡浜市における空の日のイベント協賛（トーイング体験フライト実施）

●ハング・パラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り
  - 1) 若年層をはじめとしたイベントへの協力 例：ユースパイロットミーティング
  - 2) SNS（Instagram）を活用した情報拡散→ハッシュタグを使用した写真コンテスト
  - 3) フライヤーズボイスの定期更新体制の継続
    - 事務局との連携、JHFレポート発行に同期した更新体制とJHFレポートへの要約記事掲載
  - 4) 飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
  - 5) 学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
  - 6) 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」の更新
  - 7) JHFレポートの活用検討（フライヤーからの投稿記事など）
  - 8) X、Instagramを利用した「笑

顔の写真」「楽しい写真」の募集

- 9) Sports NaviとPR TIMESへの積極的投稿
  - ハングシリーズ、フライトコンテスト、J・J2・アキュラシリーグ、XCリーグ
- 10) 一般の方がハング・パラ大会を観戦できる仕組みの検討
  - 大会会場での観戦、ウェブ観戦、ライブトラック・ライブカメラ活用、競技を説明するパンフ等の作成→2026年検討・試行

- 2 体験会等イベントへの協力
  - 1) 「新しい生活様式」におけるイベントの模索
- 3 外部組織との連携
  - 1) VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
- 4 JHFレポート企画立案への協力
- 5 JHF LIVE（LINE公式アカウント）運用
- 6 メディア対応（各都道府県の記者クラブへプレスリリース）→記者会見をサポートする体制の構築

●役員選任実行委員会

- 1 2027年通常総会における役員選任の実施
- 2 役員選任規約の改正検討

●事務局（広報出版活動含む）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）
- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（HG・PG関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（HG・PGの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 スクール・エリア登録の推進
- 7 ITシステムの更新および効率化

【その他の事業】

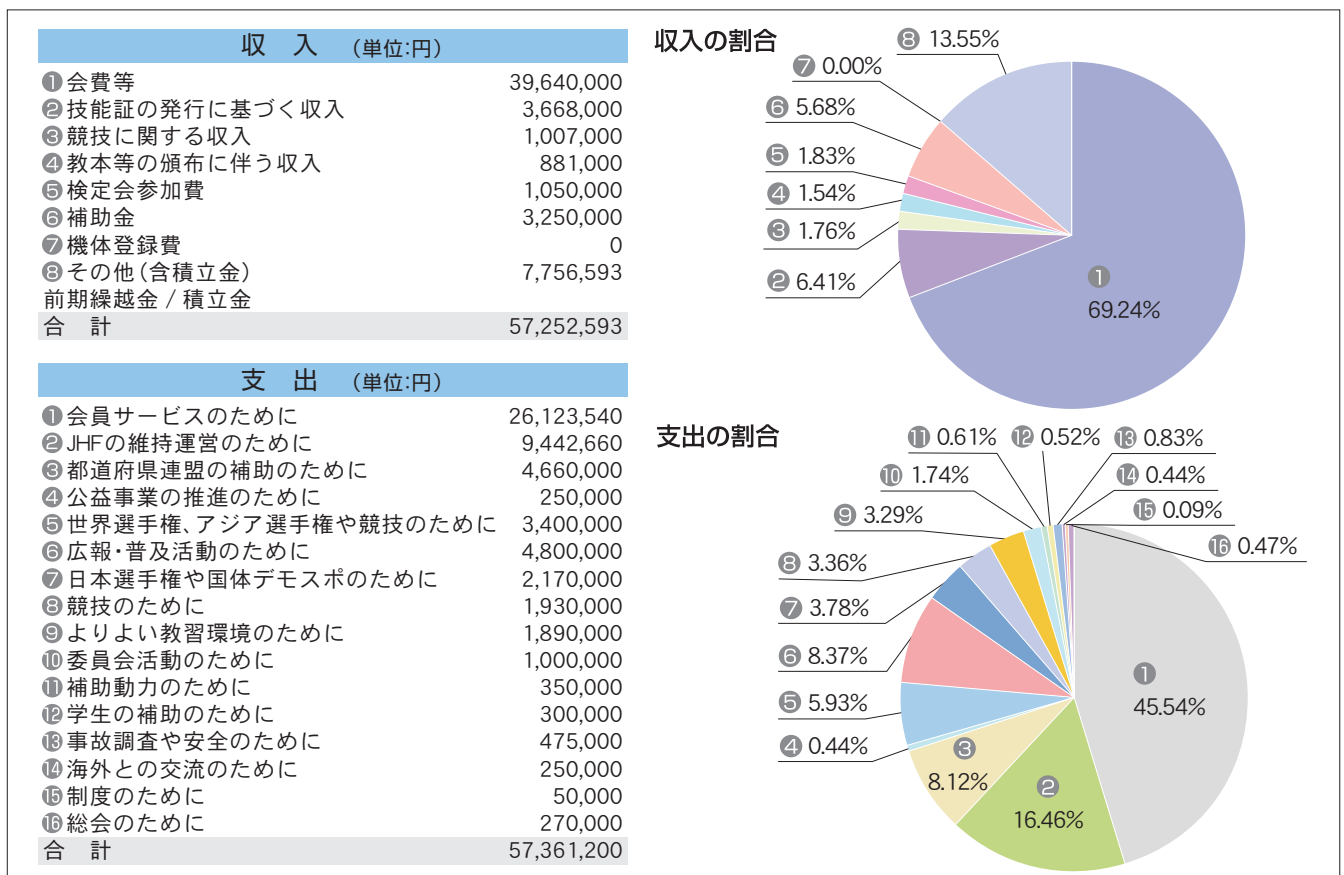
その他この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

予算

JHFの活動を支えているのは、主に会員の皆さんの会費や各種申請料などです。

これらの「収入」がどのような配分で今年度の事業に活かされるのか、下のグラフをご覧ください。



## 6月16日に東京都内で 2026年度定時総会を開催します

2026年6月16日（火）13時から、東京都千代田区、TKP九段下神保町ビジネスセンターのカンファレンスルーム3Aにおいて2026年度JHF定時総会を開催。

フライヤー会員を代表して全国の正会員（都道府県連盟）が参加します。

報告事項として、2025年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2026年度の事業計画と収支予算を予定しています。

## ツリーランディング救助講習会に 34名が参加しました

2月25日（水）、静岡県富士宮市田貫湖ふれあい自然塾にて、安全性委員会の主催でツリーランディング救助講習会を実施。34名（うち講師&スタッフ7名）が参加しました。

講師は南裏健康氏（2023年1月発行JHFレポート240号に寄稿いただいた）。

ハンググライダー、パラグライダーのフライトエリアではツリーランディング事故が目立ち、昨年は消防へ通報するも救助に時間がかかりパイロットが樹上で命を落とした事案も発生しました。

重大事故防止を図るために開催した今回の講習会では、木登りや救助スキルを持つ人員不足もあり、クライミングの安全技術を用いて救助する方法を学びました。



ツリーランディング事故の救助方法を熱心に学ぶ。



講習会に参加された皆さん。

## 2025年度教員検定員検定会を 実施しました

2025年度までの教員検定員の任期満了を迎え、2026年度からの検定員を認定するために、JHF教員検定員研修検定会を2月26日（木）・27日（金）に静岡県富士宮市にて開催しました。

全国から各都道府県連盟の推薦を受けた23名（内PG&HG検定1名）の候補者に参加いただき、教員・スクール事業委員会が中心となって、2日間の研修・実技検定を行いました。

JHF教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。

教員検定員は、教員実技検定、安全セミナーも含め講習会や検定会の講師、事故の調査も行います。2026年度からの検定員は次号でご紹介します。



教員を検定する立場になる参加者も初心に戻り臨んだ。

## 教員検定・集合学科検定を 実施しました

3月8日（日）に2025年度の教員学科検定会を開催しました。

事前にオンライン研修を3回実施し、ハンググライディング、パラグライディングの教員に必要な知識や技術に関する予備講習等を行いました。また、応募の段階でレポートを提出していただき、その内容に応じた個別指導を実施しました。

希望者には予備講習を行い、教員検定員から10時間の講習を受けて検定に臨んでもらいました。

当日は教習実技、学科検定を行いました（飛行実技検定は全国の教員検定員のもとで受検）。結果は4名が受検し全員合格でした。

合格者（HG2名・PG2名）は、飛行実技検定合格後に教員として活動を開始します。

## 上級タンドム技能証検定会 2025年度は70名が合格

2025年度の上級タンドム技能証検定会は10回開催し、136名受検（含再検定）、70名が合格しました。\*予定した12回のうち2回は悪天候により中止。

2026年度の検定会スケジュールが決まったら、JHFウェブサイトでご案内します。受検をご希望の方はチェックをお願いします。

なお、上級タンドム技能証には有効期限があります。期限が切れる方は継続検定を忘れず受検されるようお願いいたします。

## HGクラス5世界選手権 日本代表チームを選抜しました

通常は隔年開催の世界選手権ですが、ハンググライディングクラス5世界選手権が今年も開催されます。決定した日本チームメンバーは次のとおり。板垣直樹、塩野正光、山口裕之、富原淳（チームリーダー兼任）、櫻井大朗  
□第11回FAIハンググライディングクラス5世界選手権

開催地：イタリアGemona 開催日：5月31日～6月13日（第22回FAIハンググライディングクラス1ヨーロッパ選手権を併催）

<https://civlcomps.org/event/hgleuro-hg5worlds-2026>

## PGジュニア世界選手権 8月に北マケドニアで開催

第2回FAIパラグライディングジュニア世界選手権が8月20日から30日まで北マケドニアKrushevoで開催されます。  
<https://www.fai.org/sites/default/files/civl/documents/civl-plenary-2025-annexe-40b-bid-pgxc-junior-world-2026-mkd-krushevo.pdf>

## 役員選任規約の改正について

### 役員選任実行委員会委員長 鈴木由路

2025年の総会では外部理事、外部監事選任の必要性を受け、役員選任規約の改正を必要最低限行いました。

2027年の総会におけるJHF役員選任で、JHFの組織外からより幅広い人材の立候補が集まるよう、2026年の総会で役員選任規約の改正を検討しています。

## 県連だより

### ■メーリングリストへのご登録を 大阪府フライヤー連盟

大阪府には山飛びのエリアがなく、他府県のエリアやスクールで活動されている会員がほとんどです。そのためなかなか集まりにくいので、連絡事項、検討事項は主に大阪府フライヤー連盟のメーリングリストで行っています。

連盟活動に興味がある方は下記の方法で登録してください。ホームページにもメーリングリストの説明をしていますので併せてご覧ください。

<https://jhf-osaka.main.jp/hp/service/service1>

#### □メーリングリスト登録方法

氏名/JHFフライヤー登録番号/メールアドレスを明記のうえ、下記に登録依頼メールをお送りください。

[info@jhf-osaka.main.jp](mailto:info@jhf-osaka.main.jp)

ちなみに、過去の事業は、教育旅行でのパラグライダー体験の補助、ハンダクロカン日本記録達成者へのお祝い、

ハンダクロカン世界選手権参加選手に応援金、紀の川の試乗会への協賛等々。

今年度は、ハンダもパラも機材が高騰し続けているので、グライダー購入された方へ補助金を出すことを計画しており、大阪府在住のフライヤー限定、JHF公認教員のスクールからの購入に限るなど、ルールを検討中です。勿論、メーリングリストから大きな問題点や多数の反対意見が出れば中止とします。

大阪府連盟理事長 片岡義夫

### ■定期総会のお知らせ 静岡県フライヤー連盟

静岡県在住のJHFフライヤー会員の皆さんへ

下記のとおり、2026年度静岡県フライヤー連盟定期総会を開催いたします。

静岡県在住のフライヤー会員の方はぜひご出席ください。

○日時：2026年6月18日（木）午後7時より

○場所：富士川ふれあいホール  
静岡県富士市岩淵855-39  
TEL.0545-81-1003

#### ○予定議案

2025年度活動報告  
2025年度会計報告  
JHF総会の報告  
2026年度活動計画  
2026年度予算案

ご欠席される場合にはリンク先に記入の上、送信ボタンを押して、委任状をご提出ください。

委任状を提出せず、欠席する場合は静岡県フライヤー連盟総会において、構成員としての権限を辞退したとさせていただきます。

委任される場合は、下記から委任状を前日までにご記入くださるようお願いいたします。



#### 【委任状フォーム】

6月17日（水）までに  
ご記入ください

## 学連ニュース

2026年2月16日から3日間、茨城県足尾山でパラの学生大会が開催されました。全国から17名の選手が集まり、Openクラスではパイロンレース、Sportクラスはデュレーションとシークレットターゲットの合計で、それぞれの分野で競い合いました。

3日間とも風に恵まれ、選手全員フライトをすることができました。気象条件もよく、多くの選手がサーマル、リッジソアリングで長時間フライトすることができました。今回が初めてのソアリングとなった人がいたり、最高高度・フライト時間を更新する人もいたり、上達するいい機会になったと思います。慣れないエリアで小さなアクシデントはありましたが、怪我なく終わることができてよかったです。

交流もたくさん行うことができました。レセプションだけではなく、宿や食事など、他エリアの人たちと一緒に行動し話す機会が多く、仲を深めることができたと思います。レセプションでは豪華なお菓子類を提供いただき、賑やかな交流の場となりました。また、多様な経験を持つ人や様々な代の人が集まったおかげで、貴重な知見や

話を聞くこともできました。

今回大きなトラブルなく無事大会を開催できたのは、インストラクターさんやスタッフだけでなく、選手の人たちの協力のおかげでもあります。特に、ドライバーや集計、機材の設定などさまざまなことでお世話になりました。また、朝早くから、または夜遅くまで協力していただくこともありました。全員の協力がなければ無事大会を開催することができなかつたと思います。改めて、感謝申し上げます。

年々フライヤー人口が減少する中で、このように多くの学生が集まって交流する機会はとても貴重だと感じています。今回のように大会で交流することが、エリアを問わず他大会や移動などでの協力のきっかけとなったり、



公式の場以外でも交流を深めることができた。



パラ学生大会の選手・スタッフ。ご協力に感謝！

交友関係を増やし深めたりする場となることで、フライヤー活動の継続と活性化の支えになれば幸いです。

2025年度も、学生連盟主催のイベントをすべて終えることができました。改めて、学連の活動にご理解・ご協力いただいている各地のフライヤーならびにインストラクターの皆さんに感謝申し上げます。

ただ、2025年度はイベント関連でのアクシデントやトラブルが増えてしまったように感じます。4月からの新体制にむけて、運営体制の見直しや、イベント内容の変更を検討しているところです。これからも、より多くの学生が安全に長く楽しめるよう活動していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

PG学生選手権実行委員長 伊藤瑠星  
学連副理事長 浅田拓郎

# JHF総合保障制度(団体総合生活保険) 2026年度募集スタート

## 『JHF総合保障制度』とは

任意でご加入いただく、ライダーのための傷害保険です(お怪我が対象となります)。

■パラグライダー(含むモーターパラグライダー)搭乗中のお怪我、お仕事や日常生活のお怪我および遭難の際にかかった捜索費用等の補償をいたします。ご病気は補償の対象となりません。

■地震、噴火またはこれらによる津波でのお怪我についても補償対象となります(この場合は救済者費用等保険金につきましては補償の対象となりません)。

■国内・国外どちらも対象です。

■団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

### ●ご注意●

ライダー登録をすると第三者賠償責任保険が自動付帯されますが、第三者賠償責任保険はご自身のお怪我は補償されません。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

※ご加入にはライダー登録が有効である必要がありますので、必ずライダー登録の有効期限をご確認ください。

## ◆第三者賠償責任保険とは

ライダー登録時点で自動付帯される保険です。ライダーが、フライト中に第三者に与えた物的・人的被害について法的範囲内で補償することを目的としています(モーターハンググライダーは補償対象外です)。

万一事故が起きた際は、まずは日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

事務局へご連絡ください。JHF事務局が休業の場合は、下記の『東京海上日動安心110番』にご連絡ください。

TEL.0120-720-110

## ◆2026年度募集がスタートします

今年度で22年目を迎える本保障制度は2026年2月1日現在、約800名の会員の皆様にご加入いただいております。

引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくお怪我なくフライトを楽しんでいただくことが大切です。万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

## ◆現在ご加入の皆様へ

### 【パンフレット配布方法変更】

昨年度よりパンフレットの配布方法を変更させていただくことになりました。以前は皆様に紙媒体で配布しておりましたが、現在は日本ハング・パラグライディング連盟のホームページでご覧いただけるようになりました。

なお、紙媒体でのパンフレットをご希望の方は、取扱代理店(右に記載)までご連絡ください。

更新のご案内は4月上旬に取扱代理店より郵送いたしました。大切なお知らせですので、書類到着後に必ず内容をご確認いただき、必要な場合は以下お手続きをお願いいたします。

### □プラン・住所等に変更なし

自動更新のため、お手続き不要です。

### □プラン・住所等に変更あり

5月23日(土)までに右の二次元コードよりインターネットでお手続きください。

### □口座変更

WEB手続きをご案内いたしますので、代理店宛にご連絡ください。


### □解約

代理店宛にご連絡ください。

## ◆新規ご加入の皆様へ

7月1日新規加入をご希望される場合は、日本ハング・パラグライディング連盟のホームページに掲載しております『JHF総合保障制度のご案内』をよくお読みいただき、P6~P8の手順をご参考に、下の二次元コードよりお手続きください。

※利用可能時間は、毎日6:00~翌朝4:00(日曜・祝日含む)となります。

 <http://ezoo.jp/ds2/A000082EW8862607>

## インターネット募集期間:

4月1日(水)~5月23日(土)

※期日が過ぎますとお手続きができませんので、必ず期日内にお手続きください。

## 【保険に関するお問い合わせ先】

〈取扱代理店〉

東京海上日動パートナーズTOKIO

池袋支店 池袋支社

〒170-6030

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60ビル30階

TEL.03-6907-4622

(平日9:00~17:00 土日祝除く)

FAX: 03-6907-4623

Email: para.ikebukuro@tnp2000.jp

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険

航空宇宙・旅行産業部

担当課: 航空営業課

〒100-8107

東京都千代田区大手町1-5-1

大手町ファーストスクエアWEST 9階

TEL.03-3285-1726

(2026年2月作成 25TX-006622)

必ずお読みください

※このご案内は、団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入(同じ内容で更新する場合を含みます)にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。「重要事項説明書」には、ご加入または更新される保険の商品内容をご理解いただくために特に重要な情報、および、お客様にとって不利益となる事項等、特にご注意いただきたい情報を記載しております。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。団体総合生活保険の内容等については、上の二次元コード内にてご参照できます。

※現在ご加入の方につきましては、上記募集期間終了までにご加入者の方からの特段のお申し出または保険会社からの連絡がない限り、当団体は、今年度の募集パンフレット等に記載の補償内容・保険料等にて、保険会社に保険契約を申し込みます。

※保険の対象となる方またはその家族が、補償内容が同様の保険契約を他に契約されているときには、補償が重複することがあります。

### パラグライダーでしか味わえない景色があります



ホームエリア・スクール：Mt.FUJI PARAGLIDING

#### ■Mt.FUJI PARAGLIDINGについて

Mt.FUJI PARAGLIDINGは、30年以上の歴史をもつパラグライダーエリアです。

富士山の西側に位置し、富士山と天子山脈に囲まれた大きな谷に、駿河湾からの海風が届くことで、年間を通して非常に高いフライト確率を誇ります。日本では数少ない冬季でもフライト可能なエリアであり、安定した上昇気流に恵まれた、まさにフライトに最適な環境です。

さらに、日本屈指の広さを誇るランディング場を完備。ビギナーからベテランパイロットまで、安心してのびのびとフライトを楽しんでいただけます。初心者の方でも30分以上のフライトは珍しくなく、条件が良ければ1時間以上のロングフライトも当たり前。広大なランディング場がもたらすプレッシャーの少なさは、安心して飛ぶために何より大切な要素です。



通年フライト可能。富士山が見守ってくれる。

#### ■練習環境について

エリア内には、私たちが誇る練習場

「Mt.小富士」があります。テイクオフ・ランディング練習はもちろん、さまざまな基礎練習が可能で、確実にステップアップできる環境です。一度ここで練習すると、その魅力の虜になるはずですよ。

ビジターフライトの方も大歓迎。ぜひお気軽にお越しください。お問い合わせはホームページより、いつでもお待ちしております。



「Mt.小富士」でさまざまな基礎練習ができる。

#### ■校長・大竹口（おーちゃん）より

私とパラグライダーとの出会いは、なんと新聞の求人誌でした（笑）。

20歳の頃、何も知らない世界に飛び込んでみたら、怖いけどとにかく楽しい。その気持ちがきっかけで、気がつけば10年以上続いています。

まだまだ成長途中ですが、楽しみは尽きません。年齢に関係なく夢中になれること、そして生涯スポーツとして続けられることが、パラグライダーの何よりの魅力だと思います。今は亡き岩橋校長の後を継ぎ、校長という立場になりましたが、最高の遊びを教えてくださいましたことに感謝しかありません。

最高の遊びを最高の形で楽しむために——。安全にフライトできるように、たくさん遊び、たくさん学びましょう。

#### ■空から見る世界

パラグライダーでしか味わえない景色があります。

今はドローンなどで空からの映像を見ることもできますが、自分の身体ひとつで山を越え、空を移動する体験は別格です。普段の生活では決して見る



同じフライトは二度とない。一期一会のワクワクだ。



自分なりの空の楽しみ方が必ず見つかる。

このできない「山の向こう側」を、自分の目で見るができるのです。朝霧高原でトップアウトすれば、360度の大パノラマが広がります。景色は毎回違い、同じフライトは二度とありません。その変化が、いつまでもワクワクさせてくれます。

楽しみ方は人それぞれ。自分なりの楽しさが必ず見つかるから、やめられなくなるのです。

#### ■これからも

このエリアは、パラグライダーをする上でなくてはならない場所です。最高の環境の中で、最高の遊びを提供し続けていきたいと考えています。

安全に、そして長く続けていくためには、何よりも基礎練習が大切です。時間をかけて自然スポーツを理解し、安全に、楽しく遊びましょう。

これからも、みなさんを見守り続けられる校長でありたいと思っています。

いつの日か空の下でお会いできることを、心より楽しみにしております。

# 2026年CIVL総会レポート

国際航空連盟 (FAI) の国際ハンダグライディング・パラグライディング委員会 (CIVL) 総会が開催され、日本を代表して岡芳樹さんが現地出席、牟田園明さんがリモート出席しました。開催場所：DOM HENRIQUE DOWNTOWN HOTEL, Porto, ポルトガル

開催日：2026年3月5日～8日

参加国：28か国 委任状：18か国

## 重要な討議・議決事項の結果

■ 各項の頭の数字等はANNEXEの番号  
【A：全種目関連】

### 27F 最低限の医療体制

昨年のカテ（カテゴリー）1大会での事故を受け、最低限の医療体制を改善する案は承認。従来の医療関連規定とは別に新たに救助関連（例：ツリーラン／崖の途中で墜落の場合に救助する）も規定。通常の装備だけでなく、HG／PGに関わるものも規定する。また大会開始前にCIVLが医師または医療専門家を派遣、必要な体制・装備が揃っているか、改善点が改善されているかを確認し、場合によっては大会を延期／中止される可能性を残している。2027年1月1日以降の大会から適用。

### 34C 大会における事故報告

データを多く収集し分析して今後に生かす目的で、従来のように主催者がEMSを通して報告するだけでなく、事故当事者の選手および目撃者もアップ可能にする。アップする項目は極力、EMSから自動入力され、またリストから選択する形式とし報告しやすいシステムとする。報告期限は大会終了後10日まで。2026年5月1日以降、システムができ次第カテ1／カテ2に適用。

## 【B：HG,PGXC,PG H&F関連】

41BUL2 コントロールゾーンに上限／下限高度を設定する

現況ではコントロールゾーン（ター



総会は年に一度。各国の委員が討議する貴重な場である。

ンポイント、ライン、ゴール）は二次元で設定されているが、安全を考慮して三次元（二次元プラス上限／下限高度）で設定可能とする。次回のヨーロッパカテ1大会からの適用が望ましい。

41ESP2 大会主催者が自由にライブスコアリングシステムを選択できる

現況では、一つのライブスコアリングシステムが採用されているが、CIVLが定める技術的および規制上の要件を満たしていれば、よりエリアに適したシステムを大会主催者が選択できることとする。2026年5月1日から適用。

41ESP8 トラッキングシステム選定作業部会を改変する

現況、トラッキングシステムはハード・ソフト面でFlymaster一社に依存している。近年は複数のメーカーやプラットフォームが登場し多様化しており、FAIもオープングライダーネットワーク (OGN) をベースとした作業部会を設けている。これらを考慮して現在あるトラッキング作業部会をライブトラッキング企画及び安全要件検討作業部会と改名し作業することとする。

41SUI1 かさ上げたゴール

現況では、低高度かつフルスピードでゴールすることを防ぐために、時間が止まるESSをゴールからある程度距離を取ったところに設けることとしているが、近年は低高度かつフルスピードでESSを切ることが常態化し、安全性を脅かしている。これを是正するためESSを設けずにゴールをバーチャルにかさ上げし、かさ上げされた高度以下でゴールするとペナルティを科すシステム。2026年5月1日から適用。

41SUI2 より安全なストップタスク

現在のスコアリング計算式では、タスクがストップした場合、ストップした時刻にいる位置によってはゴールに向け飛び続ければポイントが上がる可能性がある。これは安全上問題があるので、タスクストップしたら、それ以上ゴールへ向かってフライトしても有利にならないようなスコアリング計算式にする。2026年5月1日から適用。

## 【C：PGXC関連】

27A タスクセッター

現在、タスクはタスクコミッティー

で決定されるが、新たにエリアに精通するタスクセッターを設け（競技委員長／セーフティー委員長兼任は不可）、その者が基本的にタスクを決定することとする。タスクセッターに助言できる選手からなるアドバイスグループを設けることは可能。タスクセッターはそのエリアでよく行われているタスクあるいは予め作成したタスクを用意し、公式練習日または大会最初のタスクの2日前までに公表しなければならない。2027年1月1日からPGXCカテ1適用。

27B 新たなゴールを大会中に追加

S7a、Paragraph 3.6.2 (Suitability of Goals) に特例として大会中に新しいゴールを設定することを許容する。以下が満たされることが条件：スケジュールが自身またはビデオにより適切であると判断し、新しいゴールができるだけ速やか（少なくともタスク開始15分前まで）に、ウェイポイントリストにアップされ、タスクのQRコードに含まれること。2027年1月1日からカテ1に適用とするが、カテ2も推奨。

27D バラスト

昔のルール（バラスト重量を33kg以下に制限。例外：安全かつ問題なくテイクオフできるなら95kgまで可能とする）が復活した。2027年1月1日以降開催のカテ1大会から適用。カテ2には強く推奨。但し、2029年1月1日以降、95kgは90kgに変更される。

27E 軽量クラス

認証最大飛行重量が95kg以下の機体に乗る選手を対象とする「軽量クラス」を設けて表彰する。2027年1月1日以降に開催のカテ1大会から適用。カテ2には強く推奨。但し、2029年1月1日以降は、90kgに変更される。

34A カテ1大会の期間を短くする

現行のカテ1大会期間の最長14日を最長10日とする。レストデイは最初のチームリーダーブリーフィングで協議する。2026年5月1日以降のカテ1／カテ2大会より適用とするが、期日既決の大会を考慮し2029年1月1日以降に開催される大会から。

40 スポーツクラス

CCCと同様にCIVLが規定するスポーツクラス (CSC) の基準と規定を定義し、安全性と公平性を確保しつつ

競技参加の促進を目的とする。CIVL作成基準の主な内容は次のとおり。

- ・ EN 926-1とEN-C以下のEN 926-2の認証を受けていること
- ・ アスペクト比は6.8以下
- ・ セル数は67以下
- ・ 機体重量は最大離陸重量の6.5%未満
- ・ 空中操作できるトリマーは認めない
- ・ 2ライナーには固定スピードリミッターが必要とされる

2028年以降のカテ1大会ではCSCまたは2026年5月1日以前に認証済みのグライダーのみ使用可能となる。

#### 41GBR2 ライントリムの許容誤差

CCCおよびPGXC大会に参加する機体（2ライナーに限る）に関してAラインとBラインの長さの基準値からの平均誤差を従来の±20mmから±10mmとし、トリム速度が速くなる方にずれていたら（>-10mm）失格、遅くなるほうにずれていたら（>+10mm）警告とする。適用時期について触れていないが2026年5月1日以降となる。PWCAでは既にそうしているとのこと。

#### 41HUN1 コンペティションハーネス

コンペハーネスのプロテクションが十分安全でないため、より安全にするため衝撃吸収試験のしきい値をより安全サイドに変更する。本来ならENの作業部会の新基準を待ちたいが、既に顕在化している問題を是正するためにCIVLが率先して規準を作成する。

#### 41SRB1 チームサイズおよび割当手順

現在、ディフェンディングチャンピオンやWPRSトップランク女子パイロットは通常の各国枠以外の参加が認められており、強豪国に有利になっているのを是正する。

A) 1. チームメンバーは3人（固定）とする（但し、世界、大陸により変更も可能でローカルルールに明記する）

2. チーム成績は各タスクでの3人のうちのベスト2人の合計点

3. チームメンバーはどちらの性別でも構わない。

B) チームメンバー以外に女子1名を追加可能

C) 1. 最初の割り当ては、WPRS国別ランキングにより行われる

2. 最大参加選手数によるが国別34位までの国が3人チームメンバーと追加女子1名をエントリーできる

3. 期日までにエントリー支払いが

されて、なお枠が余ったら、国別ランキングのそれ以降の国からエントリーを受け付ける。適用は理事会の承認を得たうえで次回XC選手権から。

#### 承認された選手権

・ 第3回PGXCジュニア世界選手権：スペイン、Pegalajar、2028年5月14日～22日

・ 第19回PGXCヨーロッパ選手権：ポルトガル、Larouco、2028年7月22日～8月4日

・ 第8回PGXCパンアメリカン選手権：メキシコ、Tapalpa、2028年11月11日～19日

・ PGXCアジアオセアニア選手権：カザフスタン、Tekeli、2028年6月

#### [D：HG関連]

##### 41GER6 HGの耐空性基準の改定

現況の耐空性基準は20年以上も前のものなので、新規開発や新素材を使用する可能性を拓くために改定する。

・ グライダー：スプログの許容誤差を現在の1度から0.25度に厳しくする。また使用するワイヤーのサイズや取り付け場所に関する制約を廃止する。

・ ハーネス：サスペンションラインを含んで最低強度を9G、バックアップラインの最低強度は6Gとする（1Gはフックイン重量）。

##### 41USA ストップタスクのスコア

クロックスタートタスクでタスクストップになった場合の得点計算のもととなる時間に関して明確化する。S7Fの13.34にある「採点には、最後の公式スタートタイムからタスクストップタイムまでの時間」とあるが、この公式スタートタイムとは、最後のスタートゲート時刻あるいは少なくとも1人の選手がスタートしたスタートゲート時刻である。

#### 承認された選手権

・ 第23回HGクラス1ヨーロッパ選手権&第12回HGクラス5世界選手権：北マケドニア、Krushevo、2028年8月5日～18日

#### [E：PGH&F関連]

##### 33 H&Fのスコアリング

現況のH&Fの採点はフレキシブルで、大会において、1日1タスクであったり、数日で1タスクであったりと混合されることもある。そこで、そのような場合にスコアリングをどうするか

との提案。2026年5月1日以降適用。

#### [F：PGA関連]

##### 31B 着地後の風速

現状では、着地前の30秒に関して規定風速を超えた場合にリフライトが認められるが、風速計の位置や場合によっては着地後に突風が入ったりしてフォルとなることが実際に起きている。そのリスクを是正するため着地後5秒以内に規定風速を超えた場合もリフライトを認めることとする。2026年5月1日以降のカテ1およびカテ2に適用。

##### 31C 靴底の細工

現状では底からの突出長さは8mmであるが、最近のパッドの破損頻度を考慮して6mmに変更する。2026年5月1日以降のカテ1およびカテ2に適用。

##### 31D マスタークラス

現状ではカテ2大会でマスタークラスの表彰は許容されているが、カテ1でも許されるようにする。2027年1月1日以降に開催される大会から適用。

##### 41CR01 ノックアウトシステム

やめることとなった。2026年5月1日以降開催される大会から適用。

##### 41SLO3 S7Cに出てくる地面の明確化

1.1.4.3に「フォールとは、パイロットの身体の一部（足を除く）または装備品（スピードシステム、ストラップ、牽引ヨークを除く）が、翼が地面に接触する前、または競技者がターゲットの中心から10m離れる前に地面に接触した場合を指します。」の後に「地面とは、地球の固い表面のことです。木、風向計、風速計などの障害物は地面ではありません。パイロットが障害物に接触しても飛行を継続すれば、フォールのペナルティを受けることなくターゲットへ向かって飛行を続けることができます。」を追加する。適用は2026年5月1日以降。

#### 承認された選手権

・ 第10回PGAヨーロッパ選手権：モンテネグロ、Budva、2028年9月30日～10月7日

・ PGAアジア選手権：中国、Jingmen、2028年9月16日～24日

・ 第3回PGAパンアメリカン選手権：アルゼンチン、San Jorge、2028年5月1日～11日

●JHFウェブサイトに報告全文を掲載中

# 中国が圧勝、総合・女子・ジュニア・国別でトップ!

2026年2月7日-15日 タイ王国 Pha Tak Suea 報告: チームリーダー/日本代表選手 岡 芳樹

5回目のアキュラシーアジア選手権がタイで開催され、12の国と地域（アジア圏外：コソヴォ含む）から97人の選手が参加（うち女子26人、ジュニア18人、アジア圏外5人）。日本選手は、代表として河本勇吉、梅迫賢一、花田瞬、川村眞、岡芳樹、伊藤まり子、内田薫の7人に、個人参加の平野竜二、古田岳史が加わった。

## 競技の舞台はメコン川流域

大会会場のPha Tak Sueaは首都バンコクの北北東約500km。最寄りの国際空港はウードンターニーにあり、そこからは約100km、車で2時間ほど。

ランディング場はメコン川の河川敷内にあるほとんど障害物の無い平坦な場所。近くに川砂利採取現場があり、川向うはラオスだ。テイクオフ場はランディングから車で20分ほど。観光名所のワットパータークスア寺院の近く。ガードレールの脇にあり3機が横にセットアップでき、崖となる急斜面まで約10mの緩斜面。高度差は290m、距離は1kmとアキュラシーには理想的。だが、会期中、テイクオフの風は東南寄りて右サイドフォロー、時間と共にサーマルが出て正面から上げてくるパターン。それほど大きな障害にならなかったが、時折フォローとなりテイクオフクローズすることもあった。

一方ランディングは、朝早くは北寄りの弱い風。時間と共に東寄りに傾き強さもサーマルが始めるとともに平均4~5m/sとなり、時には6mを超えることもある。しかし、河が隣接しているからか、サーマルが強くなっても翼端を折っても上がるほどではなく朝霧エリアから比べると制御がしやすい。

日本選手が宿泊したのはランディングから2kmほどのWixky Hotel。近くに和食レストランやコンビニがあり非常に快適に過ごせた。

## 全員が最終ラウンドまでフライト

アジア選手権の前の週に、同じ場所ですべてAFA（エアースポーツアジア連盟）国別対抗リーグと来年開催のアキュラシー世界選手権のテストイベントを兼ねた大会が開催されたが、そちらも含めてコンディションに恵まれ、このエリアのポテンシャルが実感された。

当初はルール通りノックアウト方式（最初の6ラウンド終了時点で上位選手60名が先に進める方式）が採用されていたが、アジア圏外のコソヴォの選手も入れて60人なのかと初日のチームリーダーブリーフィングで提起され、審議の結果、今回はノックアウト方式ではなく従来通りとすることに。日本選手にとっては嬉しい結果となった。

昨年の世界選手権と同様、レジストレーション時に機材チェックが厳しく行われ（キャノピーのエア漏れチェックも）、体重も測られ、グライダーの認定重量範囲内であるかもチェックされ、競技中にも抜き打ちでチェックされた。私が靴底につけていたゴム製の突起の硬度を測られ、基準値より硬いとのことに取り除くことを要求され、従った。

## ゼロか1cmを出し続ける

昨年のトルコでの世界選手権でも世界のレベルを見せつけられたが、今回もトップの戦いは熾烈で、小さいパッドスコアを出すだけでは全く勝負にならず、ゼロか1cmを出し続けなければならない。

最悪の1本を消せる5ラウンドが終了した時点で、世界選手権者Yan Chenを抑えて1位には韓国のMoonseob選手。その後ラウンドが進むにつれ、10cm以上の大きなスコアを出した選手が順次後退する展開。最悪の7cmを消してよい位置につけていた日本のエース河本選手が、8ラウンドで痛恨のハーネスタッチ、順位を落とし後がない状態に。

上位の選手はほぼ全員3cm以内のスコアを出し続ける。10cm以上を出すとすぐに10位くらい後退してしま



少し先は崖になる緩斜面からテイクオフ、メコン川の河川敷内にランディングする。



スコアは電光掲示板に表示される。川村選手、1点!



フライトを終えたらマッサージも受けられる。極楽～。



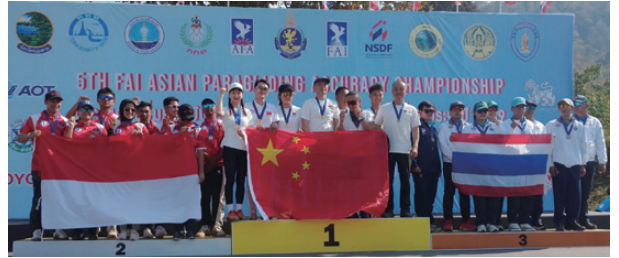
総合入賞者。中国選手が表彰台を独占。どれほどの練習を積んできたのか。



女子トップ3。勝者Xiangyan Kongは総合でも2位に。



ジュニア入賞者。2位と3位は最終日のフライオフで決定された。



国別1～3位。トップレベルの強さと層の厚さを思い知らされた。

う。そして最終の12ラウンド。最も盛り上がりそうな場面だが、11ラウンドでトップのYan Chen選手（中国）と2位のXiangyan Kong選手（中国）との差は3点。Yan Chen選手が200点を出しても、その200点が消えて、消えていた2cmが現れるだけなので、結局順位は変わらない状況に。そしてYan Chen選手の最終フライトは、何とゼロ。恐れ入りました。

### ジュニア2位を決するフライオフ

若干盛り上がりには欠けた最終ラウンドで、我々とは関係の無いところでドラマが起きた。12ラウンド終了時点でジュニアクラスの2位が共に合計14点。Pangeran Dirgantara Pribaya選手とAlvin Pratama選手、インドネシア選手どうし、フライオフが行われることになったのだ。そして迎えた最終日、フライオフ1本目。まずPangeran選手がフライト。DCを踏んだように見えたが、DCを踏んだ時に鳴る音がせず、表示されたスコアは1cm。次にAlvin選手。こちらもDCを踏んだようだったが、音は鳴らない。表示スコアはこれまた1cm。勝負がつかず2本目のフライオフへ。今度はAlvin選手が先行。着地した瞬間に例の音が鳴りスコアは0cm。2番目のPangeran選手には音が聞こえていたであろうか、気合を入れてパッドを踏むが、音は鳴らず、スコアは1cm！ ついに決着し、ジュニアの銀メダルはAlvin選手、銅メダルがPangeran選手となった。これで9日間の大会が幕を下ろすことになった。

### 中国がすべてのチャンピオンに

中国はやはり強く、本命のYan Chen選手が昨年の世界チャンピオンに続きアジアチャンピオンに。またアジア総合の表彰台はすべて中国選手。女子、ジュニア、国別チャンピオンも中国が総なめ、中華人民共和国国歌を4回聞く羽目となった！

表彰台に上がった選手たちの、12ラウンド成立し最悪の1ラウンドを消した11ラウンドの合計結果は、ラウンド平均1cm。トップ10ではラウンド平均1.7cm。トップ20で平均2.5cmだった。日本トップの花田選手でも平均4.4cmでオープン総合34位、梅迫選手は平均5.8cmで41位。日本の大会では毎回トップの河本選手でも平均6.3cmで44位に沈んでしまった。どれだけ練習を積めば世界のレベルに近づけるのか大きな課題が残される大会であった。ちなみに、Yan Chen選手の最終結果は6cm（平均0.6cm以下！）。2位の選手は10cm（平均0.9cm）。3位の選手は11cm（平均1cm）だった。蛇足ではあるが、選手の技術がどんどん上がってきて、ターゲット中央のパッド、特に中心部を踏む確率が上がり、パッドの消耗が激しくなったとのこと。今回は6個交換したようだ。

最後に、改めて、世界のレベル、並びに選手層の厚さを昨年に続いて思い知らされた。大変残念な結果となりましたが、日本チームに意欲に燃えた新しい選手も加わり、お互い切磋琢磨し、かつメンタルも強くして、世界レベルに近づけるように努力したいと思

います。サポートしていただいたJHFならびに応援をくださった皆様に感謝いたします。

### [総合]

- 1位 Yang Chen 中華人民共和国
- 2位 Xiangyan Kong 中華人民共和国
- 3位 Wenkai Dong 中華人民共和国
- 31位 花田 瞬 37位 梅迫賢一
- 40位 河本勇吉 47位 岡 芳樹
- 48位 古田岳史 64位 平野竜二
- 68位 伊藤まり子 78位 川村 真
- 92位 内田 薫

### [女子]

- 1位 Xiangyan Kong 中華人民共和国
- 2位 Nunnapat Phuchong タイ王国
- 3位 Eunyoung Cho 大韓民国
- 14位 伊藤まり子 25位 内田 薫

### [ジュニア]

- 1位 Wenkai Dong 中華人民共和国
- 2位 Alvin Pratama インドネシア
- 3位 Pangeran Dirgantana Pribaya インドネシア
- 10位 花田 瞬

### [国別]

- 1位 中華人民共和国
- 2位 インドネシア
- 3位 タイ王国
- 5位 日本

### ●アキュラシーのスコア●

アキュラシーは着陸精度を競う競技。ターゲットの中心（DC）を踏めば0cmで0点。中心から遠くなればスコアは大きくなる。

# パラグライディングXCリーグ/ハンググライディングフライトコンテスト リーグ首位の座を勝ち取ったパイロットたち

〈続〉2025年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。

2025年シーズンも多くのパイロットがその技術と知識、経験を活かして「より遠くへ、より速く、より長く」を競い、それぞれの目標達成に向けて挑戦しました。今回は、前号の編集集中に順位が確定していなかった各リーグについて報告します。

## PGクロスカントリーリーグ

[フリーディスタンス]

- 1位 多賀 純一 最長5/1-171.4km  
+152.1+135.3+106.2km 計565.16km  
2位 隅 秀敏 最長4/19-151.3km  
+110.7+103.1+69.0km 計434.19km  
3位 関口 典彦 最長4/5-132.5km  
+107.4+102.4+86.4km 計428.69km  
4位 杉下 拓也 最長4/5-145.9km  
+97.1+92.9+90.1km 計426.06km  
5位 山下 敦子 最長4/5-162.8km  
+111.3+94.5+40.1km 計408.78km  
6位 橋本 耕一 最長4/5-137.5km  
+98.5+77.3+66.0km 計379.27km  
最長飛行 多賀 純一 5/1-171.4km  
茨城県足尾山→福島県福島市



1位/最長飛行  
多賀 純一

直近の目標であった「XCリーグ最長距離」と「2年連続、通算5度目となる総合優勝」、この2つのタイトルを同時に手にすることができ、大変うれしく思っています！

昨シーズンの関東地方はクロカン飛行の当たり年で、気温減率も良く、福島まで南風が吹き抜ける日が数多くありました。全国のトップフライヤーたちもXCを狙って大勢足尾エリアに集まり、集団で効率よく距離を伸ばせる絶好の環境がありました。

結果として、自身最多となる計5本の100kmオーバーを記録し、自己ベストも152km、171kmと二度にわたって

更新できました。

4月19日は白河を超えた後はホームエリア「エリアヤマザキ」の親しい友人3人だけになり、まるでツーリングのように郡山を超え152km手前まで共にフライト。着陸後に電車で集合、新幹線で乾杯したことは最高の思い出です。

そして5月1日、171kmの最長フライト。須賀川以降は一人旅となりましたが、前回の経験を活かして北上できました。初めての安達太良山から福島盆地に入るまでは順調でしたが、高度を下げるとバックするほどの強烈な北東風（海風）に遭遇。安全を優先し、戻ってランディングしました。福島市の爆風を肌で感じた初体験でした。

何度も挑戦し、ようやく白河以北のコース取りが掴めてきました。今後も日本記録の更新を視野に入れつつ、安全第一でクロカン飛行を楽しんでいきたいと思っています！

## HGフライトコンテスト

[ストレートディスタンス クラス1]

- 1位 小梶 溪太 4/5 176.2km  
2位 小高 史郎 4/5 148.26km  
3位 櫻井 大朗 4/5 147.09km

[ストレートディスタンス クラス5]

- 1位 内藤 邦裕 4/5 203.7km  
2位 古坂 学俊 4/5 201.31km  
3位 松田 隆至 4/19 154.99km

[アウトアンドリターン クラス1]

- 1位 服部 良亮 3/29 78.94km  
2位 氏家 良彦 3/29 72.42km  
3位 大山 真哉 1/26 68.33km

[アウトアンドリターン クラス5]

- 1位 古坂 学俊 9/27 111.53km  
2位 松田 隆至 2/24 60.28km  
3位 山本 剛 8/31 59.6km

[トライアングル クラス1]

- 1位 杉岡 洋介 2/23 75.02km  
2位 砂間 隆司 2/9 60.62km  
3位 鳥羽 岳太 2/16 57.45km

[トライアングル クラス5]

- 1位 古坂 学俊 3/20 113.91km  
2位 山本 剛 8/31 93.46km  
3位 松田 隆至 2/24 65.3km

[デュレーション クラス1・5]

- 1位 児玉 智雅 10/18 5:10:35

2位 山本 剛 4/12 5:09:03

3位 野尻 知里 5/3 4:36:43



ストレートディスタンス  
クラス1 1位  
小梶 溪太

4月5日、足尾山から176km。

140kmくらいまではみんなと一緒に快調に飛んでいました。降りる場所が少なく南風も強かったので、流されるサーマルになんとかしがみついて、150km超えたあたりでようやく広い場所に降りようとしたら、また強いサーマルに当たって、流されながら進みました。福島市を超えたところは果樹園が多くまた降りる場所が少なく、最後は北東強風でランディング。

そのまま近くの穴原温泉の旅館に泊まり、楽しいクロカン温泉旅行となりました。



ストレートディスタンス  
クラス5 1位  
内藤 邦裕

2025年4月5日、10年来の目標であった200km超えをようやく達成することができ、併せてストレートディスタンスの国内年間記録を出すことができました。

長年、気象のエキスパートとして各種スカイスポーツの解析予報サポートに携わりながらも、自身のフライト成績やXC記録を伸ばしきれない修行の年月が続いておりましたが、今回の記録を通じて一つの大きな達成感を得ることができました。

いつも一緒に切磋琢磨してくれる友人パイロット、回収をサポートして下さる皆さん、飛べる環境を作ってく下さるNASAやJHF等各署の皆さん、職場の仲間、そして何よりいつも支えてくれる妻に、心からの感謝を伝えます。



アウトアンドリターン  
クラス1 1位  
服部 良亮

龍門山から奈良県吉野郡へのアウトアンドリターンで79kmを飛びました。

往路はスタート判断が遅れた焦りから上げきれないまま動き、五條市でようやく雲底2200mに着け吉野まで足を伸ばしてリターン。復路は高層雲で日照が弱まりましたが、時間をかけて慎重に上げ、戻ることができました。何とかリターン達成できたものの気象条件的にはもう少し飛べた可能性があり、「当たり日を最大限に活かす積極性」が自分の今年の課題です。

また昨年の龍門山としては、ウェーブ性のリフトで雲海上2000mを飛ぶという稀有なフライトも記憶に残っています。20年以上飛んでいるホームエリアですが、まだまだ未知の景色があり楽しみです。



**アウトアンドリターン  
クラス5 1位  
古坂 学俊**

2025年のアウトアンドリターンフライトは2月にびったり100km、また8月の盛夏の最中に90kmと季節毎にまざまざの記録を出すことができましたが、サーマルも弱まり日照も随分と短くなった9月の終わりにまさかの年で一番のフライトが出るとは想像もしていませんでした。

当日は足尾山からマイルドな秋のサーマルを繋いで順調に北上して13時前には折り返してリターンを始め、サーマルタイムの終わりが早いため先を急ぎつつも慎重にリフトラインを選んだのが功を奏したか、無事にサーキット

コースを閉じることができました。秋は台風もあり当たり外れの大きい季節ですが、条件とやる気が揃えば安全にクロカンができるのでお勧めです。



**トライアングル  
クラス1 1位  
杉岡 洋介**

クラス1トライアングル部門で1位という結果をいただき、自分でも本当に驚いています。素直にめちゃくちゃ嬉しいです。そもそも「参加してみたら？」と背中を押してくれたO山さんがいなかったら、この結果はありません。本当に感謝しています。さらに、西富士エリアの新しい飛び方を開拓できたことも嬉しく思っています。

ハング活動を理解して支えてくれる妻（とアロ）にも助けられ、一緒に飛んでくれる仲間や先輩方、安全に飛べる環境にも恵まれて幸せです。これからも楽しみながら成長していきます。ありがとうございました。



**トライアングル  
クラス5 1位  
古坂 学俊**

最近筑波山系の西の平野の空域を開拓していくのが楽しみの一つですが、2025年1位となったフライトもそんなフライトでした。前日に予報を見ると圏央道の境インターと北関東道の真岡インターを結ぶあたりのラインが良さそうだったので、ふたつのインター

をターンポイントとするトライアングルコースが閃きました。最初のレグは上限1200mの空域の天井があり、その下を10kmほど潜っていくのが大変ですが、空域制限と上手に付き合っていくのも現代のフリーフライトでは必須のスキルのひとつとなっています。

実際のフライトは空域制限をかわした後も波瀾万丈でしたが、最後は運も味方してクローズでき、個人的にも印象に残るフライトになりました。



**デュレーション  
1位  
児玉 智雅**

この部門で二度目の金メダルになりました。

デュレーションはほかの部門と異なり、コンディションとやる気が揃えば誰でも1位を狙うことができます。

普段なら10月に記録狙いはしないのですが、クロカンついでデュレーション金メダルは取らずまいと、なんとか1分多く飛んでみました。

実は別日にもチャレンジはしました。夏至近く一日中南風が吹く予報があり、最長記録更新のために日の出を狙ってテイクオフに上がりました。当然のように先に来ていたプロの鳥羽さんと飛びましたが、結果はたった3時間。途中で風が弱くなってしまったのです。空から見る朝の日差しはとてもきれいで、心が洗われました。いい思い出です。今年是可以かな。

**2025年パラグライディングXCリーグを振り返って**

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

2025年度は、67名のパイロットが4本合計で10km以上となりランキングされた。

10km以上のフライトは740本で、エリアの順位では、足尾（32%）、猪之頭（16%）、エリア山崎（9%）、鳩ぶき（7%）、岩屋（5%）となり、若干の入れ替わりがあったが前年度と同じ。やはりアクセスのし易さと、エリア

ア会員のクロカン志向が結果に表れているようだ。

50km超のフライト（115本）で見ると、断然足尾が群を抜いている（86%）。続いて大佐（4%）、その他が2%（本数で言うと2本）となる。

そして、100km超のフライトは、2025年度は36本となり、前年度に比べて大幅に増加した。エリアはこちらもダン

トツで35本となる足尾。残りの1本は大平であった。関東平野の北に位置して、春の南風に乗って北上するルートが日本ではクロカンに適していることを物語っている。

締めとして、昨年も注意喚起をしたが、社会的責任を十分考慮して、くれぐれも安全を最優先に挑戦をするようにお願いします。

**2025年ハンググライディングフライトコンテストを振り返って**

ハンググライディング競技委員長 牟田園 明

2025年フライトコンテストは、全国各地で多くの優れたクロスカントリーフライトが記録され、レベルの高いシーズンとなった。

200kmを超えるフライト、いわゆる「200kmクラブ」はパイロットにとっ

て大きな目標であり、その達成者は依然として10名にも満たない。2025年はその高い壁に挑み、実績を残したフライトが複数見られ、国内XCシーンの着実な進歩を感じさせた。特に気象の読みが結果を大きく左右する中で、気

象人として知られる内藤氏が、精緻な予想に基づいて成果を上げたことは特筆に値する。自然条件を的確に捉えた判断力と実行力は、多くのフライヤーにとって大きな示唆となるものであり、ここに深い敬意を表したい。

## JHFからのお知らせ／お願い

### JHF公式Instagramに 動画・写真をご提供ください

JHF公式Instagramで、パラグライダー、ハングライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような動画や写真を公開しています。あなたやお仲間の楽しいフライトの様子をぜひ！Googleフォームからご提供をお願いします。ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



#### 【JHF Instagram】

[https://www.instagram.com/hang\\_para/](https://www.instagram.com/hang_para/)

### ■写真で空の仲間を増やそう！ 第13回フォトコンテスト開催

2026年度もJHFハングライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。

ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる作品、一般の人の目を惹く作品を募集します。お気軽にご応募ください。データでも応募可能です。笑顔あふれる写真もお待ちしています。

募集要項等はJHFウェブサイトのトピックスをご覧ください。応募締切日は2026年9月8日（火）です。

なお、全応募作品から14作品をJHFカレンダー2027年版に採用します。

### ■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。[お知らせいただきたいこと]

フライヤー会員番号 お名前（氏名変更の場合は新旧名） 新住所  
連絡先電話番号 メールアドレス

### JHFフライヤー会員の皆様へ メールアドレス登録のお願い

JHFでは会員管理システム等の改修を準備中です。郵便料金値上げへの対応、事務効率化のため、システム改修後は更新通知や会員証等の発行・発送等について、メールを利用してご案内していく予定。またマイページで各種届けができるよう検討していきます。つきましては下のQRコードからお名前やメールアドレスをご登録ください。



#### 【オンライン申請準備】

<https://sites.google.com/view/jhf-online/>

## 上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

JHFではハングライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

デジタル方式なので混信が少なく、クリヤーで聞き取りやすくなっています。

上空利用 15チャンネルを搭載し現在販売されている機種は下記のとおりです。STANDARD製のVXD1S、ICOM製のIC-DPR4 PLUSシリーズ、八重洲無線のSRD580・SRD585シリーズ。

なお、JHFではSTANDARD製デ

ジタル無線機を11台保有し、フライヤー会員に貸し出ししています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧ください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているかご確認ください。

登録をしないまま無線機を使用しますと、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。

お忘れのないようお願いいたします。

## JHF LIVE

### ハング・パラの魅力が随時発信中

JHFの活動をいち早くお伝えするため、ハング・パラ振興委員会が中心となって立ち上げた『JHF LIVE』ですが、大会の様子やフライヤーへのインタビューなどを動画で随時発信しています。

皆さま、情報発信源となるXアカウントのフォローと拡散をお願いします。

Xをされていない方のためのポータルサイトも用意しました。右下の

QRコードのサイトを「お気に入り」に保存していただけたら幸いです。メールアドレスを登録すると、新しい投稿のお知らせをメール通知で受け取れます。



#### 【X】

[https://x.com/JHF\\_LIVE](https://x.com/JHF_LIVE)



#### 【ポータルサイト】

<https://jhfhangpara.wixsite.com/jhf-live>

### 各種申し込み／お知らせ／ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

<https://jhf.hangpara.or.jp>

事務局業務効率化のためできるだけメールでのご連絡をお願いします。

\*このJHFレポートには、神奈川県在住の方に限り県連盟のお知らせも同封しています。

#### JHFLレポート253号

発行日：2026年（令和8年）4月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト

本レポートの一部あるいは全部を無断で複製複製することはご遠慮ください。